

道の上手な人で私のことをよく知っておられ、「剣道がうまくて、すばしこくとびまわっていた」とよく
いってられました。

中学に入ってから学校でも練習しないし、道場にも行かなかったのですが、大きくなるにしたがって
頭が進んでいくためでしょうか、腕があがって上手になっていくような気がしていました。あるとき、久
しぶりに道場に行ってみたことがありました。笹山先生の代りにいつも稽古していただいていた紙屋先生
がおられました。相手をしていただいたとき私が先生を打ちまくるので先生がびっくり、嘩然としておら
れたことをよく覚えています。どこを打とうというのではなく、手が自然に動くのです。これは速記でも
同じで、手が自然に動いて書けるようなものです。

速記の運動を始めてあちこち出かけているとき、昭和五年ごろだったと思いますが、埼玉県の浦和中学
校で講演・講習したことがありました。その校長先生は今井という先生でしたが剣道の達人で、学校の
授業が終わるとすぐ剣道の服装をして道場へ出かけられていました。私も剣道なら少しやったおぼえがあ
るので私にもやらせていただきたいと先生にお願いしてやらせていただいたところ、あとで「あに速記の
みならんや」といってほめられたことがありました。